

2024年3月期 第3四半期決算 連結業績概要

2024年2月7日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
福田 智光

決算サマリー

2024年3月期第3四半期 業績概要

- 売上高は864億円（前四半期比4%増）。主に情報機器向けと通信機器向けが増加。
- 営業利益は49億円（同80%増）。スマートフォン向けの需要が好調なことから販売数量が増加し、操業度効果が増益に寄与。円安による為替影響も増益要因となった。
- 売上高は、11月時点の想定範囲内。操業度効果が予想を下回ったため、営業利益は想定していた水準に届かなかった。

2024年3月期 業績予想

- 5月に発表した通期業績予想を下方修正。
- 売上高は前期比微増の3,210億円、営業利益は100億円（前期比69%減）を予想。

2024年3月期第3四半期 業績概要

第3四半期は、第2四半期に対して増収増益となりました。

売上高は前四半期比4%増の864億円で、主にメモリなどの情報機器向けとスマートフォンなどの通信機器向けの売上が拡大しました。

営業利益は同80%増の49億円でした。主にスマートフォンに使用されるMLCC小型品の需要が好調だったことで販売数量が増加し、操業度効果が営業利益を押し上げました。この他、円安による為替影響も増益に寄与しました。

11月時点の想定比では、インダクタと複合デバイスの売上高が想定を上回ったものの、情報インフラ・産業機器などに使用されるMLCC大型品の売上拡大が想定よりも緩やかだったため、全社売上は想定範囲内に収まりました。一方、営業利益については在庫減少によって操業度効果が抑制され、想定を下回りました。

2024年3月期 業績予想

第3四半期までの実績と今後の需要予測などに基づき、5月に発表した通期業績予想を下方修正しました。売上高は前期比微増の3,210億円を、営業利益は前期比69%減の100億円を計画しています。

第3四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期 第3四半期		増減	
売上高	82,814	100.0%	86,386	100.0%	3,572	4.3%
営業利益	2,721	3.3%	4,900	5.7%	2,178	80.1%
経常利益	5,127	6.2%	1,169	1.4%	△3,958	△77.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,497	3.0%	276	0.3%	△2,220	△88.9%
対米ドル期中平均レート	142.47円		149.10円		6.63円円安	
為替変動による影響額	売上高 +27億円、営業利益 +18億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,353		3,446		93	2.8%
設備投資額	9,491		32,732		23,241	244.9%
減価償却費	9,420		10,221		801	8.5%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

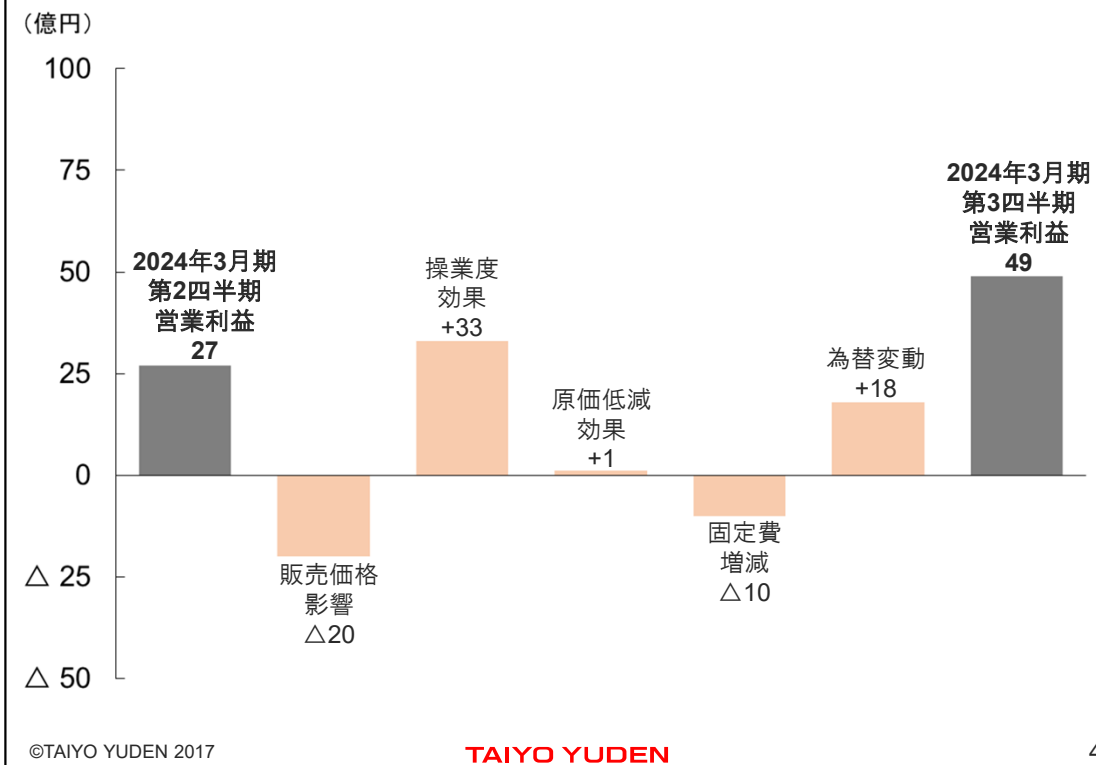
3

2024年3月期第3四半期の業績は、
売上高864億円、営業利益49億円となりました。
期末の為替レートが1米ドル141円台と
前四半期末の149円台に比べて円高になったため、
営業外費用として40億円の為替差損が発生し、経常利益は12億円でした。
親会社株主に帰属する当期純利益は3億円となりました。

期中平均の為替レートは1米ドル149円台で、
前四半期に対して7円円安でした。
これにより、売上高に対しプラス27億円、
営業利益に対してプラス18億円の影響がありました。

研究開発費は前四半期とほぼ同額の34億円でした。
設備投資額は、マレーシアのMLCC新工場が完成したことから
232億円増加し、327億円となりました。
減価償却費は8億円増加して102億円でした。

第3四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



営業利益が前四半期に対して増益となった主な要因は、操業度効果です。操業度効果には、販売数量増減や棚卸資産の増減、ミックス改善などが含まれています。

12月末の棚卸資産が、為替影響など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで9月末から35億円減少した一方で、通信機器向け、情報機器向けの需要が好調だったことによって販売数量が増加し、操業度効果が33億円の増益要因となりました。

この他、円安による為替影響18億円と原価低減効果1億円も増益に寄与しました。

減益要因としては、20億円の販売価格影響や減価償却費、人件費を中心とした固定費の増加10億円もありましたが、営業利益は第2四半期から22億円増加し、49億円となりました。

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	51,950	62.7%	54,190	62.7%	2,240	4.3%
インダクタ	15,748	19.0%	16,196	18.7%	448	2.8%
複合デバイス	8,326	10.1%	9,641	11.2%	1,314	15.8%
その他	6,789	8.2%	6,358	7.4%	△430	△6.3%
合計	82,814	100.0%	86,386	100.0%	3,572	4.3%

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

(億円)



■ コンデンサ (前四半期比 +4.3%)

民生機器向けが減少したものの、情報機器、通信機器、情報インフラ・産業機器向けなどが増加。

■ インダクタ (前四半期比 +2.8%)

主に情報機器、通信機器向けで売上が拡大。民生機器向けは減少。

■ 複合デバイス (前四半期比 +15.8%)

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加。

■ その他 (前四半期比 △6.3%)

アルミニウム電解コンデンサが減少。

■ コンデンサ

■ インダクタ

■ 複合デバイス

■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

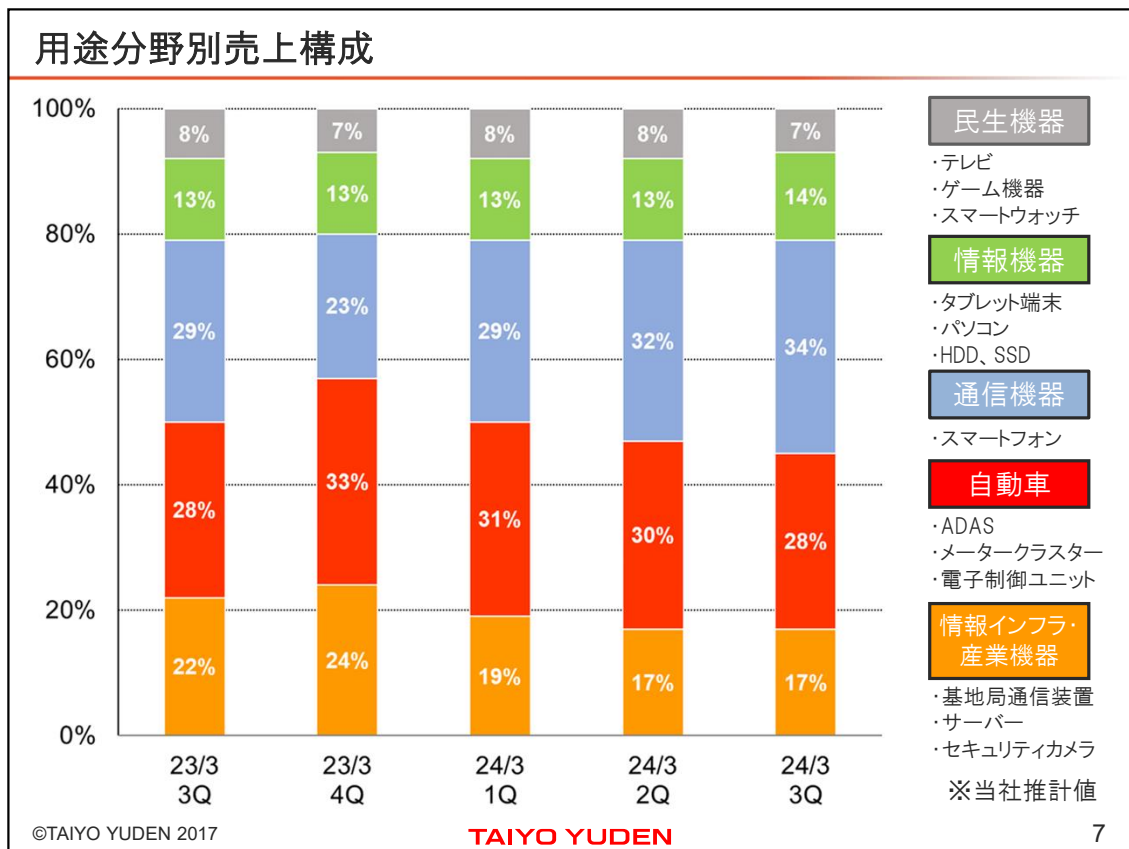
TAIYO YUDEN

6

コンデンサの売上高は前四半期比4%増の542億円、インダクタは同3%増の162億円でした。両製品とも、主に情報機器向けと通信機器向けで売上が拡大し、自動車向けも堅調に推移しました。一方、民生機器向けは減少となりました。

複合デバイスの売上高は、同16%増の96億円でした。主に、中国系スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加しました。なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、約75%でした。

その他は、アルミニウム電解コンデンサの売上が減少した影響で、前四半期比6%減の64億円となりました。



通信機器向けの売上構成比は、スマートフォンの季節的要因や中国向けの需要回復などもあり、前四半期から2ポイント上昇し、34%となりました。

一方、自動車向けは、売上は堅調に推移したものの、構成比は2ポイント減の28%となりました。

その他の用途分野の売上構成比は前四半期から大きな変化はなく、サーバーや基地局通信装置などを含む情報インフラ・産業機器向けが17%、ノートPCやタブレット端末などの情報機器向けが14%、スマートウォッチやゲームなどの民生機器向けは7%でした。

2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	2024年3月期 前回予想		2024年3月期 今回予想		増減	
売上高	322,000	100.0%	321,000	100.0%	△1,000	△0.3%
営業利益	15,000	4.7%	10,000	3.1%	△5,000	△33.3%
経常利益	14,000	4.3%	10,000	3.1%	△4,000	△28.6%
親会社株主に 帰属する当期純利益	8,000	2.5%	3,000	0.9%	△5,000	△62.5%
対米ドル期中平均レート	130.00円		142.88円		12.88円円安	
研究開発費	13,000		13,000		0	0%
設備投資額	90,000		90,000		0	0%
減価償却費	40,000		40,000		0	0%

・5月に発表した業績予想を下方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

2024年3月期の通期業績予想を、5月に発表したものから下方修正しました。

パソコンやメモリなどの情報機器やサーバーをはじめとする
情報インフラ・産業機器の在庫調整が期初の想定よりも長引き、
その後の需要回復にも力強さが見られないことが主な要因です。

第4四半期の各市場の需要動向につきましては、
自動車向けの需要は引き続き堅調で、売上も拡大基調が続く見込みです。
情報インフラ・産業機器市場は在庫調整が継続しており、
需要の回復ペースは鈍い状況です。
また、通信機器向けは、スマートフォンの季節性によって
第3四半期から第4四半期にかけて需要が減少すると想定しています。

売上高は3,210億円、営業利益と経常利益は100億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は30億円と計画しています。
また、今後の競争力向上に必要な研究開発活動や
コンデンサを中心とした能力拡大は計画通り進めており、
研究開発費、設備投資額、減価償却費は従来の予想から変更しておりません。

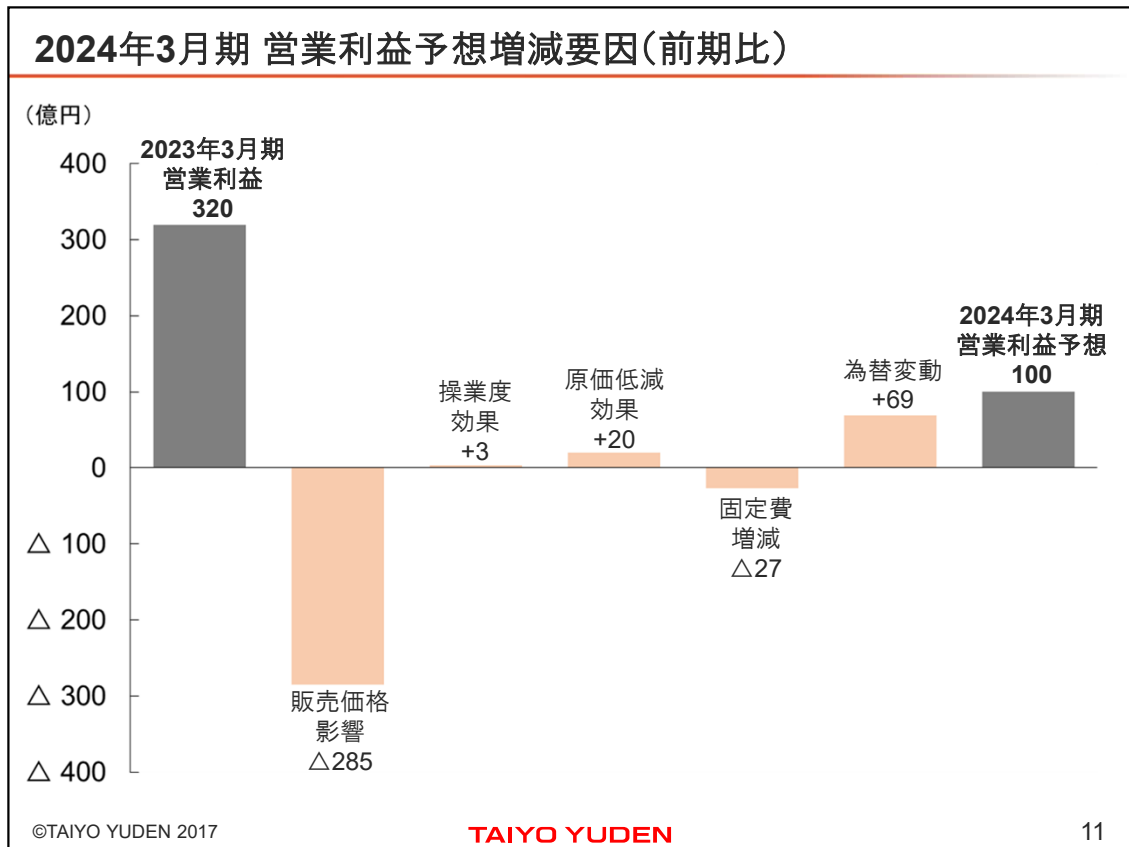
なお、1月に発生した令和6年能登半島地震において、
生産拠点の建屋や設備に大きな損傷はなく通常の事業活動を継続しておりますが、
第4四半期に新潟県の子会社における修繕費や棚卸資産廃棄損などの
特別損失が発生する見込みです。
金額については調査中ですが、通期予想の範囲内に収まると想定しています。

2024年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2023年3月期		2024年3月期 予想		増減	
売上高	319,504	100.0%	321,000	100.0%	1,496	0.5%
営業利益	31,980	10.0%	10,000	3.1%	△21,980	△68.7%
経常利益	34,832	10.9%	10,000	3.1%	△24,832	△71.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	23,216	7.3%	3,000	0.9%	△20,216	△87.1%
対米ドル期中平均レート	134.20円		142.88円		8.68円円安	
研究開発費	12,678		13,000		322	2.5%
設備投資額	50,489		90,000		39,511	78.3%
減価償却費	34,903		40,000		5,097	14.6%

・ 5月に発表した業績予想を下方修正。

前期から売上高は微増となりますが、
各段階利益は大きく減少する見込みです。



今期の主な減益要因は、販売価格影響です。

自動車向けアイテムなどは依然として緩やかな値下がりペースが続いているものの、市場の在庫調整や需要回復に伴う販売アイテム構成の変化に伴い、285億円の減益影響が見込まれます。

加えて、固定費の増加27億円も減益要因となると見えています。

一方、増益要因として円安による為替影響69億円、原価低減効果20億円、操業度効果3億円が見込まれます。

これらの結果、営業利益は前期に対して大幅に減少し、100億円となる見込みです。

なお、第4四半期は棚卸資産の増加を予定しており、3月末の水準は、為替など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで、12月末に対して50億円増加する見込みですが、前期3月末比では、50億円程度減少となる予定です。

2024年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	2024年3月期 前回予想		2024年3月期 今回予想		増減	
コンデンサ	213,000	66.1%	205,000	63.9%	△8,000	△3.8%
インダクタ	51,000	15.8%	54,500	17.0%	3,500	6.9%
複合デバイス	30,000	9.3%	35,500	11.1%	5,500	18.3%
その他	28,000	8.7%	26,000	8.1%	△2,000	△7.1%
合計	322,000	100.0%	321,000	100.0%	△1,000	△0.3%

通期の製品別売上高は、
コンデンサは2,050億円、その他は260億円で、
5月時点の予想から下方修正しました。
一方、インダクタと複合デバイスは上方修正し、
インダクタは545億円、複合デバイスは355億円と計画しています。

2024年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2023年3月期		2024年3月期 予想		増減	
コンデンサ	208,115	65.1%	205,000	63.9%	△3,115	△1.5%
インダクタ	52,866	16.5%	54,500	17.0%	1,634	3.1%
複合デバイス	32,581	10.2%	35,500	11.1%	2,919	9.0%
その他	25,941	8.1%	26,000	8.1%	59	0.2%
合計	319,504	100.0%	321,000	100.0%	1,496	0.5%

前期比では、コンデンサは2%減、
その他は前期並みの売上高と想定していますが、
インダクタは3%、複合デバイスは9%の増収となる見込みです。

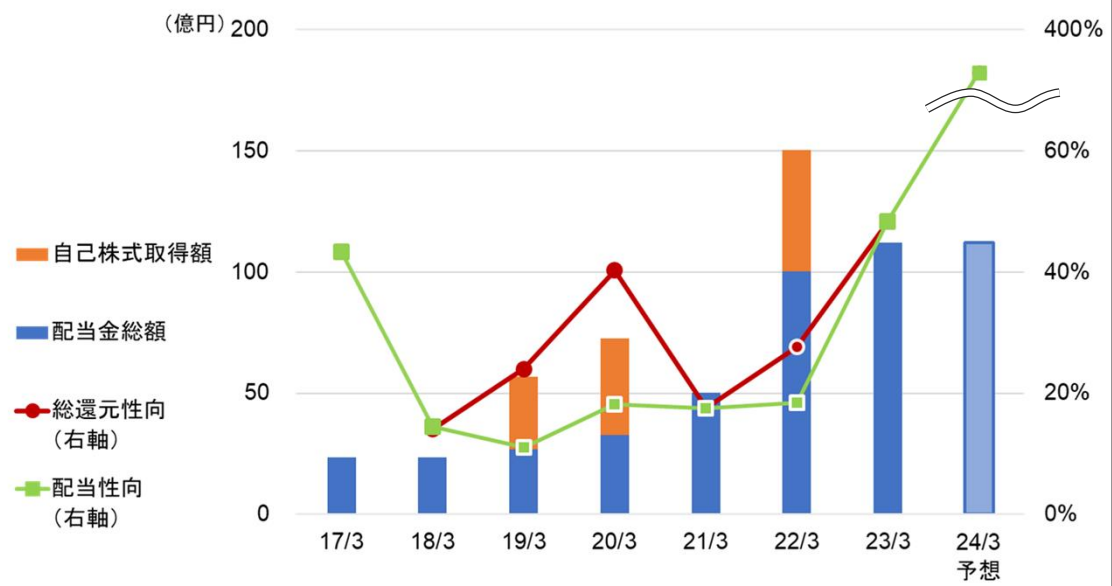
第4四半期 製品別売上高予想

百万円	2024年3月期 第3四半期	2024年3月期 第4四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	54,190	△5%
インダクタ	16,196	△29%
複合デバイス	9,641	△3%
その他	6,358	+3%
合計	86,386	△8%
対米ドル期中平均レート	149.10円	(前提) 145.00円

第4四半期の製品別売上高予想は、この表のとおりです。
 前四半期比でコンデンサはマイナス5%、
 季節的な需要減の影響が大きいインダクタはマイナス29%、
 複合デバイスはマイナス3%、その他はプラス3%と予想しています。
 全社合計では、8%の減収となる想定です。
 なお、為替レートは1米ドル145円の前提です。

引き続き、各機器の需要動向や金融資本市場の変動を注視して
 変化に対応していくとともに、中期的な需要拡大を見据えた準備を
 進めてまいります。

株主還元



1株当たり年間配当金(円)	20	20	21	26	40	80	90	90
1株当たり当期純利益(円)	46.08	138.80	189.93	143.04	227.99	433.46	186.32	24.07

安定的な配当性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

15

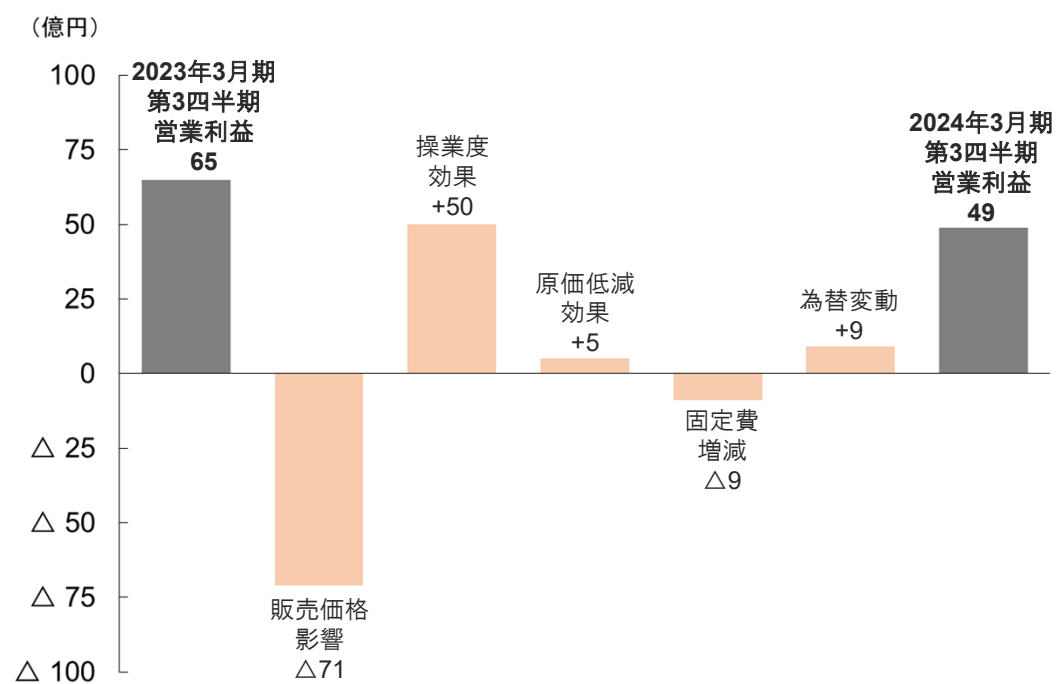
配当は期初予想から変更なく、年間配当90円を予定しています。

補足資料

第3四半期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2023年3月期 第3四半期		2024年3月期 第3四半期		増減	
売上高	79,032	100.0%	86,386	100.0%	7,353	9.3%
営業利益	6,462	8.2%	4,900	5.7%	△1,562	△24.2%
経常利益	2,572	3.3%	1,169	1.4%	△1,403	△54.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	1,972	2.5%	276	0.3%	△1,696	△86.0%
対米ドル期中平均レート	144.27円		149.10円		4.83円円安	
為替変動による影響額	売上高 +20億円、営業利益 +9億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,289		3,446		157	4.8%
設備投資額	15,738		32,732		16,994	108.0%
減価償却費	9,089		10,221		1,132	12.5%

第3四半期 営業利益増減要因(前年同期比)



第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2023年3月期 第3四半期		2024年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	49,867	63.1%	54,190	62.7%	4,322	8.7%
インダクタ	15,212	19.2%	16,196	18.7%	983	6.5%
複合デバイス	7,358	9.3%	9,641	11.2%	2,283	31.0%
その他	6,594	8.3%	6,358	7.4%	△236	△3.6%
合計	79,032	100.0%	86,386	100.0%	7,353	9.3%

第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)

1,000



■ **コンデンサ** (前年同期比 +8.7%)

情報機器、通信機器、自動車向けが増加。
民生機器、情報インフラ・産業機器向けは減少。

■ **インダクタ** (前年同期比 +6.5%)

情報機器、通信機器、自動車向けが増加。
その他の用途分野向けは減少。

■ **複合デバイス** (前年同期比 +31.0%)

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加。

■ **その他** (前年同期比 △3.6%)

アルミニウム電解コンデンサが減少。

■ コンデンサ

■ インダクタ

■ 複合デバイス

■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

第3四半期累計 連結業績概要(前年同期比)

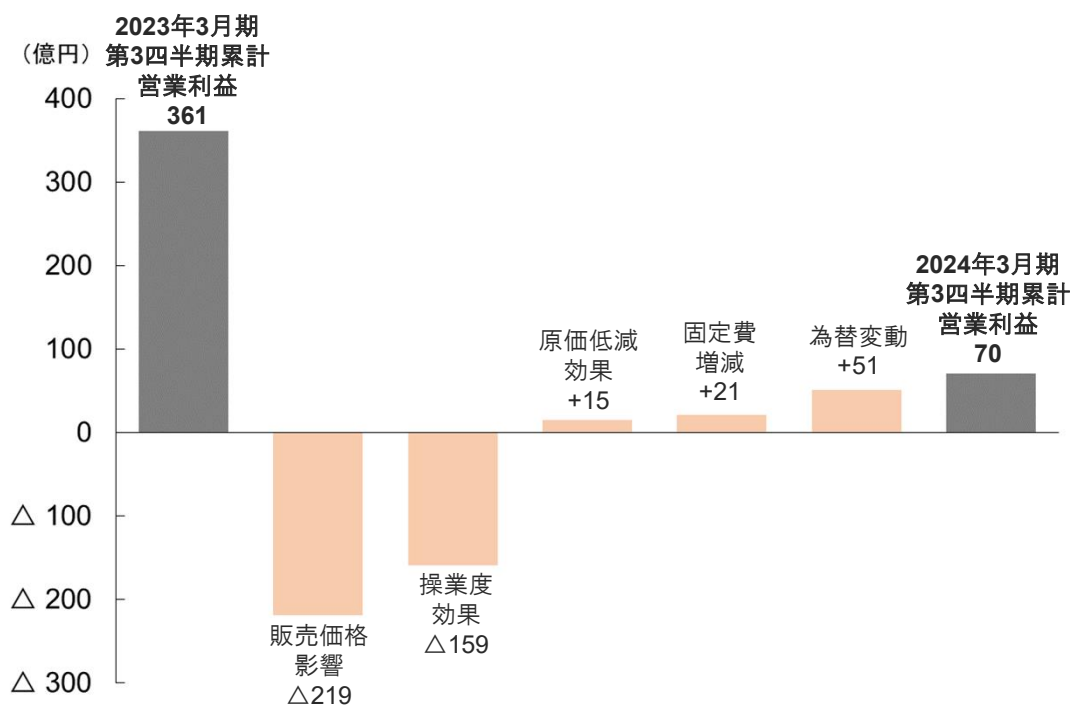
百万円	2023年3月期 第3四半期累計		2024年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	247,046	100.0%	241,813	100.0%	△5,232	△2.1%
営業利益	36,080	14.6%	7,043	2.9%	△29,037	△80.5%
経常利益	38,132	15.4%	7,456	3.1%	△30,676	△80.4%
親会社株主に 帰属する当期純利益	26,853	10.9%	3,676	1.5%	△23,176	△86.3%
対米ドル期中平均レート	134.68円		142.17円		7.49円円安	
為替変動による影響額	売上高 +80億円、営業利益 +51億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	9,513		9,969		456	4.8%
設備投資額	36,104		68,192		32,088	88.9%
減価償却費	25,414		28,492		3,078	12.1%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

21

第3四半期累計 営業利益増減要因(前年同期比)



第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2023年3月期 第3四半期累計		2024年3月期 第3四半期累計		増減	
コンデンサ	160,889	65.1%	153,274	63.4%	△7,614	△4.7%
インダクタ	42,118	17.0%	42,920	17.7%	802	1.9%
複合デバイス	24,794	10.0%	26,150	10.8%	1,355	5.5%
その他	19,243	7.8%	19,467	8.1%	223	1.2%
合計	247,046	100.0%	241,813	100.0%	△5,232	△2.1%

第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比 Δ 4.7%)

民生機器、情報機器、情報インフラ・産業機器向けが減少。

■ **インダクタ** (前年同期比 +1.9%)

情報機器、通信機器、自動車向けで売上が拡大。民生機器、情報インフラ・産業機器向けは減少。

■ **複合デバイス** (前年同期比 +5.5%)

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)が増加、各種モジュールは減少。

■ **その他** (前年同期比 +1.2%)

アルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

24

連結業績推移(四半期)

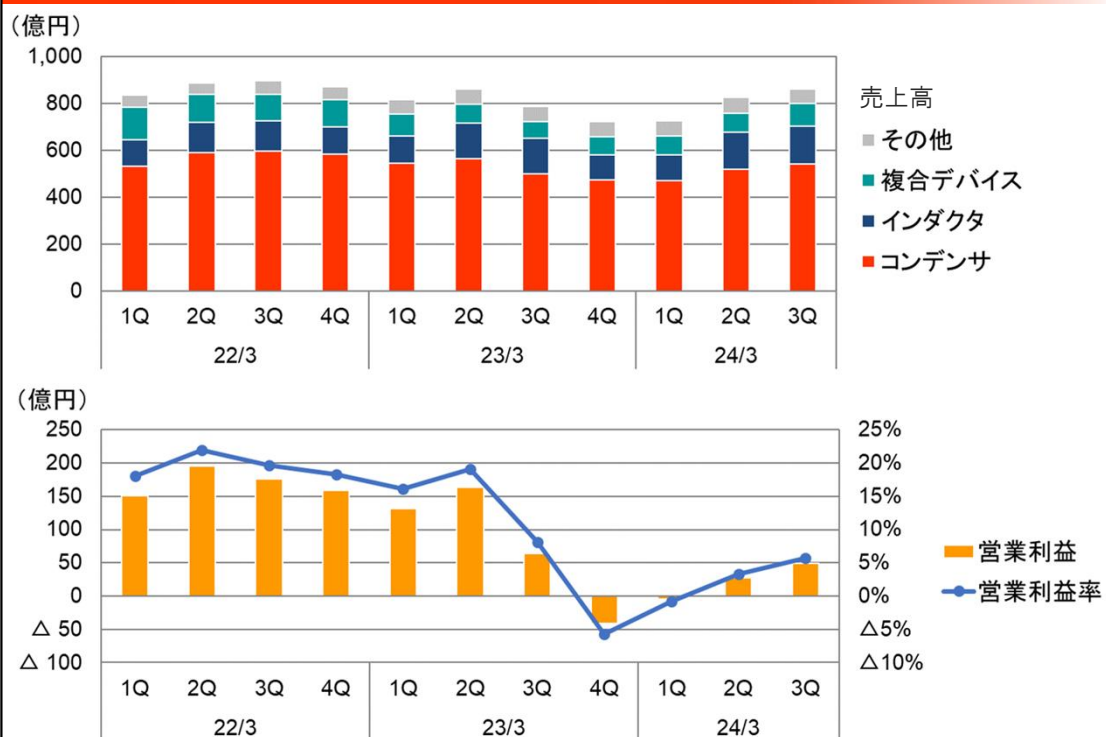
百万円	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	83,836	88,833	89,840	87,125	81,740	86,272	79,032	72,458	72,612	82,814	86,386
コンデンサ	53,209	59,035	59,787	58,352	54,583	56,438	49,867	47,225	47,133	51,950	54,190
インダクタ	11,386	12,863	12,957	11,717	11,748	15,156	15,212	10,748	10,976	15,748	16,196
複合デバイス	13,977	11,959	11,351	11,510	9,159	8,276	7,358	7,786	8,182	8,326	9,641
その他	5,263	4,975	5,743	5,545	6,248	6,400	6,594	6,697	6,320	6,789	6,358
営業利益	15,147	19,508	17,643	15,919	13,142	16,475	6,462	△4,100	△577	2,721	4,900
経常利益	15,174	20,370	18,390	18,256	17,204	18,355	2,572	△3,299	1,159	5,127	1,169
親会社株主に 帰属する 当期純利益	12,969	15,479	13,410	12,502	12,236	12,643	1,972	△3,636	903	2,497	276
対米ドル 期中平均レート	109.00 円	110.10 円	112.48 円	114.66 円	124.45 円	135.33 円	144.27 円	132.75 円	134.93 円	142.47 円	149.10 円

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

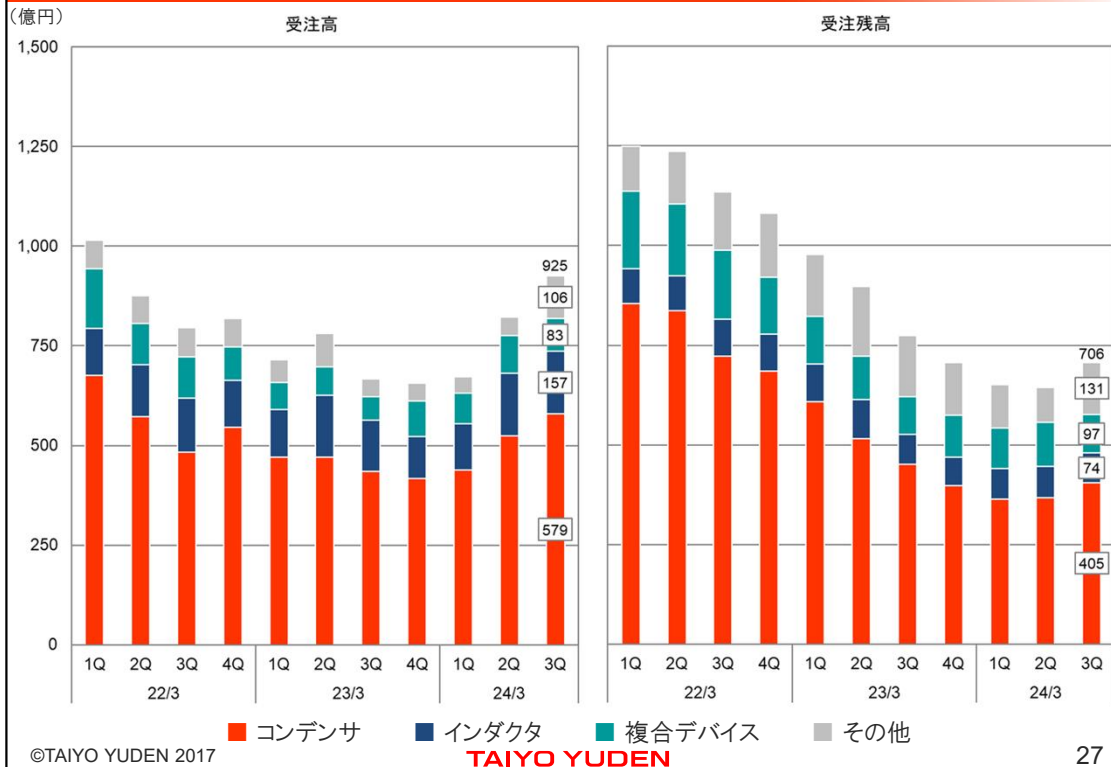
25

連結業績推移(四半期)



受注高・受注残高推移(四半期)

(億円)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN